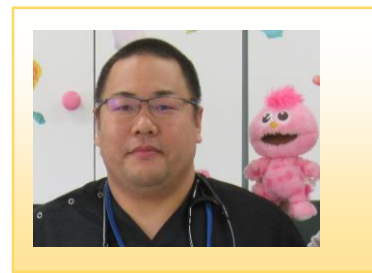


## 子どもの食物アレルギーについて

小児科医師 持田 壘

食物アレルギーは、私達自身や家族、友人などでの経験例も多く比較的身近なトピックかと思いますが、今回は子どもの食物アレルギーについて話をしたいと思います。



まず小児の食物アレルギーについての現在の全体的な流れやその背景などについてお話します。女性の社会進出が進み、政府の待機児童対策などの推進もあり、保育所の利用率は年々増加傾向となっています。その一方で、保育所には食物アレルギーや気管支喘息、アトピー性皮膚炎などの様々なアレルギー疾患をもつ子どもも少なからず在籍しています。なかでも食物アレルギーは毎日の給食対応が必要であり、アナフィラキシーなどの強い症状が生じるリスクも抱えています。また近年の医学的知識の蓄積や検査方法の進歩などもあり、**食物アレルギーの取り組みや考え方などが従来とは少しずつ変わってきている**現状があります。こうした背景もあり、**2019年（平成31年）4月に「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（厚生労働省）**が8年ぶりに改訂されました。今回の改訂では、記載内容がより分かりやすく、実践しやすいよう具体的に記載されるようになった印象があり、またアレルギー用生活管理指導表の使用が明記された点が大きな特徴です。従来は保育施設独自の用紙などを使用しているケースも多かったのですが、きちんと統一したもので対応していこうというもので、アレルギー疾患に関して特別な配慮や管理が必要になった子どもが対象となっています。具体的に、どういった食品に対して、どういった症状がでるのか、また食物アレルギーの診断根拠やおおまかな管理に対する情報提供書といった感じのものです。行政側も食物アレルギーに対する情報を盛んに発信するようになり、今回のガイドラインも厚生労働省のホームページから一般の方も確認できるようになっています。

### <課題>

食物アレルギーに対する対応が少しずつ変化してきているなかで、課題もいくつか挙げられており、大別すると保育所などの施設側の課題と、医療機関や患者側の課題があるとされています。

**保育所などの施設側の課題**として、「慢性的な人員不足の中で、食物アレルギーのある児に対応しなければならない状況」や「食物アレルギーに対する体制の不備や知識不足」などが指摘されており、アレルギー症状への対応や責任者が決まっていないことも多く、その場での対応を迫られているケースもあるようです。

**医療機関や患者側の課題**としては、「食物アレルギーの正しい診断や指示が与えられていないこと」や、今挙げたような状況にある「施設の現状の理解が乏しいこと」などが大きな問題であると言われています。給食で原因食品を提供するのかもしれないのかも含めて親の判断に委ねられているケースや、血液検査結果などに基づく過剰診断も散見されます。俗にいう食物アレルギーの血液検査（特Ig体）は、診断根拠とはならず、重症度判定のきちんとした指標とならないことが知られていますが、保育所入園時などにアレルギー検査の名目で実施され、そのまま食物除去となっているケースも見られます。毎日の食事の中では、子どもの成長や発達を考慮し、多品目のバランスの良い食事が推奨されていますが、「必要最小限の食物除去」が必ずしも実践されているとは言いづらい現状があります。

## <対応>

このような課題があるなかで、どう対応していくべきか、簡単に言ってしまえば、食物アレルギーの正しい診断と事故の予防、そして緊急時の適切な対応が重要だと考えます。

**診断に関しては**、採血結果のみならず、必要に応じて食物負荷試験などをきちんと実施し、根拠に基づいた診断をする必要があります。また医師が主体となり、保育園での食事提供や緊急時対応などを含め、親や保育園などへ適切な助言や指導を行うことや、生活管理指導表を用いて積極的に情報提供していくことが求められています。

**事故予防に関しては**、事故の多くは単純なミスや勘違いから発生するため、全ての保育所スタッフが予防対策の必要性を理解し、給食提供の各段階における予防対策を講じる必要があります。また誤食予防や給食の安全性確保の観点から、保育施設におけるアレルギー食対応は、完全除去か解除の二択になります。保育園入園前に全ての食品を予め摂取することは非常に難しいので、初発事故の全てを未然に防ぐことは不可能ですが、「保育園で初めて食べることをなるべく避ける」ようにするなど親への指導も必要であると考えます。

**緊急時対応に関しては**、本人や親のみならず、保育所スタッフはじめ、児に関わるすべての職種がアドレナリン（エピペン）注射を含めた対応ができることが求められています。生活管理指導表はアレルギー症状への対応を具体的に指示するものではないため、実際にアレルギー症状が出た場合には、ガイドラインに基づき対応することになりますが、決して難しいものではありません。アナフィラキシーを疑う症状があれば救急搬送を指示し、エピペンを所持していれば、太ももの外側に5秒程度、垂直に強く押し付けるように接種します。少しでも疑わしい症状があれば迷わず速やかに接種することが重要です。具体的なアナフィラキシーの症状やエピペン使用については、ガイドラインに詳細に記載されています。

以上、小児の食物アレルギーについて大まかに説明してきましたが、アレルギー採血や食物負荷試験、食物除去や解除含めた食事相談、緊急時対応など、不安や疑問点などあれば、当院小児科に是非ご相談下さい。

## 【食物アレルギーを疑う症状】

